

# 1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年4月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1570200681		
法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会		
事業所名	グループホーム千手		
所在地	新潟県長岡市千手1丁目6-16 (電話) 0258-34-5547		

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	19年	12月4日

【情報提供票より】(19年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 8年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6人
職員数	6人	常勤 6人、非常勤 0人、常勤換算 6人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階	建ての	1階 ~ 2階 部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000~21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 無
食材料費	朝食 200 円	昼食 300 円	
	夕食 260 円	おやつ 円	
	または1日あたり		円

### (4) 利用者の概要 (19年9月現在)

利用者人数	6名	男性 0名	女性 6名
要介護1	2名	要介護2	2名
要介護3	1名	要介護4	0名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 81歳	最低 72歳	最高 92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田宮病院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム千手」は平成8年、民家を改築し、新潟県内初のグループホームとして誕生した。母体法人は各種高齢者福祉サービスを運営している社会福祉法人であり、各々のサービス事業所とも連携をはかりながらサービスの質の向上に献身的に取り組んでいる。ホームは家庭的な雰囲気を大切にしており、また、日常生活の中で階段の昇り降りなどを通じて筋力低下を防止するなど普段の生活の中での取り組みに力を入れている。地域住民とは、近隣の掃除、日常の挨拶などを通じて自然な形で関わり合い信頼関係を構築しており、地域住民が事業所や利用者を気にかけてくれていて、利用者が1人で外を歩いていると連絡をもらえるなどの協力関係ができています。また、運営推進会議等でも地域、地域包括支援センター等の行政機関との連携も密に取れており、地域住民が当ホームの運営に理解を示し協力的である。今後も、地域の大切な社会資源のひとつとしてその役割が期待されるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価に対しては前向きに捉え改善しようとする意欲がある。改善の取り組みとして、地域密着型サービスとしての理念を、玄関に掲示しより分かりやすいものに改善した。また、急変や事故発生時は、消防署が近いということで比較的対応が早く指示をもらいながら対応することができている。今後さらに、職員がくり返し知識や技術を確認し身につけられるよう応急手当等の訓練を定期的を実施することを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者を中心に自己評価をまとめ上げた。自己評価を日常の業務を見つめなおす機会として捉えた上で評価を行なった。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>概ね2ヶ月に1回開催されている。地域住民の代表を始め、地域包括支援センター、医者、法人責任者などが参加している。事業報告を行ったり、地域活動への参加等を検討しながらサービスの向上に努めている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者の日常生活上の様子は、適宜家族に報告を行なっている。苦情等へも誠実に対応している。職員の異動、退職などの動きは、家族の面会時等に報告するに留まっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自然な形で地域との結びつきが出来ている。とりわけ、近隣の掃除、挨拶などで自然に接することで、ホームに対する地域の理解を深めており、長年に亘って交流が行われている。また、地域、町内会でのお祭り等の行事にも積極的に参加し、交流を深めている。</p>

## 2. 評価報告書

(   部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で生き生きと楽しく生活することを理念に掲げ、掃除や挨拶など、日常的な地域との関わりを大切に、地域との交流に法人、事業所職員が一体となって取り組んでいる。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は食堂の掲示していつでも確認できるようにしており、管理者、職員ともに理解し、共有している。管理者は、ホーム・地域が利用者の生活の場であることを機会を捉えて職員に話している。		
		家族や地域への理念の浸透			
2 - 2	3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	町内会の回覧板を活用して事業所の広報等を回覧したり、近所の神社へ顔を出したり日頃から挨拶をするなど地域住民とのふれ合いを通じて、理念の浸透に努めている。家族や来訪者に伝わりやすいよう、玄関に掲示する理念はさらにわかりやすい言葉にして掲示するなど工夫している。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	特別なことをするのではなく、日常生活の中での地域住民へ積極的に挨拶をしたり、ゴミ拾いなどの活動を通じて交流している。地域でのお祭りなど定例行事への参加も欠かさず行っている。また、近隣の業者に品物を注文することで、福引抽選会にお誘いいただいたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去の外部評価を通じて改善していることも多く、振り返りへの機会として有効に活用している。今回の自己評価も、管理者を中心にまとめ上げた。自己評価を、日常の業務を見つめなおす機会として捉えた上で評価を行なった。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な2ヶ月に1回行われている。事業所の職員のほかに法人関係者、管理者を指導する立場の職員、地域住民代表として地域で積極的に活動している方、入居者、在宅医療に精通している医師の参加もあり、広く事業所での取り組みについて話し合いが行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者や地域包括支援センターとは、気軽に相談や連絡ができる関係にあり、ホームからの相談にも随時応じてもらっている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が中心となり、学習会やミーティング等を通じて虐待に関する啓発を行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子については、面会時または電話にて報告している。加えて、仕事等により日中の連絡が難しい状況にある家族にはFAXを活用し連絡している。職員の異動・退職等については、家族の面会時等に伝えている。		利用者・家族にとって、職員が異動・退職等で変化することは大きな影響があるので、面会に来た家族だけでなく、広報誌等を活用して家族へ報告することが望まれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に面談を行ない意見の吸い上げを行なうなど、管理者は日常的に家族と接する機会を持つよう努めており、意見は支援内容に反映されている。必要時はFAXでのやりとりも行なっている。また、運営推進会議に家族代表者から出席してもらい、意見をいただいている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員が相互になんでも言い合えることが重要だと認識しており、日常業務の中で職員と情報共有し、意見、提案も前向きに受け止めてサービスに活かしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員が変わることが利用者には大きな影響を与える可能性を理解しており、出来る限り継続して同じ職員に勤めてもらえるよう、法人関係者等へ働きかけるなどの配慮している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	緊急時のマニュアルについては法人内の他事業所と協力して作成し、活用している。また、地震の経験を踏まえて、緊急時にすぐに持ち出せるよう利用者の個人ファイルを作成することをマニュアルに取り入れるなど、適宜追加や見直しを行なっている。インフルエンザ、ノロウイルス等感染症マニュアルも整備している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としては様々な研修を企画され、ホームとしても適宜参加はしているが、研修はすべて本部がとりまとめており、なかなか希望する研修に参加できない。職員自身が研修や講習を見つけて自主参加することが中心であり、近隣で開催される研修にしか参加できない実情である。		職員へ必要時、適宜研修案内は管理者を通じて行っている。更に職員の研修に対する意向調査等を行うなどニーズの把握に努めていくことを今後一層期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、日常的に法人内の他グループホームと積極的に交流を行っている。法人内グループホーム間で、職員の不足等が起こった場合には「助動」として他事業所の職員の応援を得られる体制があり、業務を円滑に行うことが出来るよう工夫している。新潟県グループホーム協議会の中心的事業所として活動をしている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人の仕組みとしてメンタルヘルス専門の職員を配置しており、どの職員でも相談できる体制も整っている。職員と管理者との信頼関係も構築され、職員は、日常的に管理者に悩みや相談をすることができる。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム入居に至るまでの調整や決定は、個々のケースを勘案して、法人全体で行なう仕組みである。入居希望者の見学を受け入れ、本人に納得してもらった上で入居申請してもらっている。また、最近は、入居申請にあたって地域包括支援センターが関わるケースも多く、情報交換をしたり、地域包括支援センターを通じて希望者への情報提供や見学受け入れを行なうなど、本人がより納得できるよう密に連携を図っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りなど、利用者と一緒にこなしているが、職員が主導的に行ってしまう部分も多い。職員は、年齢が高く家事などの経験が豊富で器用な女性ばかりであり、利用者から昔の生活の知恵を学ぶなどの場面が少ない。		利用者自身が持っている知恵や技術を教えてもらう場面づくりをしたり、日常生活の場面において各々の能力をさらに引き出し、よりいっそう「ともに支え合う」関係づくりに期待したい。
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、場合によってはFAXを使って、利用者の様子について家族と情報を共有するよう努めている。利用者の希望する外出は、家族に支援をお願いしたり、職員が支援したりと状況に応じて協力し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り入居者の希望、要望を聞き、入居者本位の生活が実現できるよう検討している。近隣の高齢者福祉センターへ行って体操をしたいという利用者には、要望に沿って支援している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートを活用し生活歴などの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常の情報共有はミーティング等を活用して行っている。介護計画の作成は、担当職員と管理者が共同で行い家族への相談、説明等も行っている。		利用者のその人らしい生活を支援するという観点から、その人の持っている能力や技術を生活場面で活かせるような働きかけ、活動をさらに取り入れた介護計画作成を期待したい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとに担当職員を中心に見直しが行われている。それ以外にも変更が必要な場合には、家族とも情報共有しながら適宜見直しをしている。		
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内他事業所の看護師と連携し、利用者の健康管理を行なっている。また、職員が不足した際には他事業所からの応援を得られる法人内の連携体制が整っており、利用者の希望や状況に応じた支援を継続することができる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則的に、かかりつけ医への受診は家族にお願いしており、連絡票を渡し、日ごろの様子を医師に報告し連携を図っている。受診後は、家族から状況を十分に聞き取り把握に努めている。どうしても家族が付き添えない利用者についてはホームで受診付き添いを行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医や協力医療機関、訪問看護ステーションの看護師等と連携し、医療行為が必要な重度の利用者への支援を行っている。ホームとしては看取りまで実施する方針であり、家族の意向を十分に確認しながら進めている。又、今後の重度化にむけて事業所としての方針を前向きに検討中である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の居室に入る際の確認や、呼び方について本人・家族と十分に話し合うなど、利用者一人ひとりを尊重した対応を心がけている。また、利用者が外出・外泊などで部屋を空ける際は居室の鍵をかけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者を急かしたり制止するようなことなく、一日を思い思いに過ごせるよう支援している。利用者の重度化がすすんできた中、思いや希望を把握しながら一人ひとりに合わせた対応を心がけている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、利用者・職員と一緒に手作りしている。準備、後片付けなど利用者一人ひとりの役割が決まっており、それぞれが状態や能力に応じて行っている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレでの排泄を支援しており、利用者一人ひとりの状況に応じて日常の排泄パターンを把握し誘導等を行っている。利用者のタイミングに合わせて適切に誘導されており、失敗が少ない。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中に入浴が行なわれている。利用者の希望や状況に合わせてきた中で、自然と入浴時間帯が午前中になってきた。入浴を拒んだ場合でも適宜感情に合わせ、手足浴や夜間入浴を実施するなどの支援を行いながら無理強いしないよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活するという観点を大切にしながら、利用者一人一人のできることを活かした役割や楽しみごとを持てるように支援している。ゲームや歌、塗り絵やふうせんバレーなどで日々単調にならない工夫をしている。季節に合わせておはぎやまゆ玉を作ったり、地域の方と一緒にちまき作りをして近所に配ったりしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物等は日常的に行なっている。体を動かすことが好きな利用者には地域の体操教室へ参加できるよう支援したり、法人内のデイサービスセンターに遊びに行つて他利用者と交流できるよう支援している。また、外出はデイサービスセンターの車両を借りて行なうことができる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはマニュアルを作成するとともに、勉強会や、法人内他施設と共に事例検討を行ない、管理者、職員ともに身体拘束は行わないことを認識している。実際に身体拘束のないケアを実践している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上夜間のみ施錠し、日中は玄関の鍵はかけていない。外へ出ようとする利用者には職員が付き添い、時には一緒に散歩するなどしている。また、利用者が外出しても、ご近所の方が知らせてくれるなどの体制が整っている。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故やヒヤリハット事例については、毎日のミーティングで話し合い情報を共有して、事故防止に取り組んでいる。階段には両側に手すりをつけ、転落防止を図っている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	事業所のすぐ近くに消防署があり緊急時でも5分以内で駆けつけてもらえる環境である。職員は救急蘇生法などの講習を受けており、対応が可能な状態ではある。夜間の緊急時はすぐに駆けつけることができる職員を配置している。		救急蘇生法や応急手当の方法については、時間が経過するにつれ、やり方、方法などが変化するので1年1回は以前に講習を受けた職員も含め定期的、かつ繰り返し行うことを期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	夜間帯など職員数が少ない状況を想定して、年2回、防災訓練を行なっている。また、各居室にスプリンクラーを設置し災害時に備えた環境整備は行われている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が献立を作成しており、カロリーや栄養バランスに配慮されている。ホームでも調理をする際、塩分を少し減らすなど工夫している。また、利用者一人ひとりの嚥下や咀嚼の状態に合わせた形態の食事を提供している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>民家を改築したホームであり、建物の造りや設備は、親しみやすく利用者にとって馴染みの雰囲気である。居間には仏壇もあり、利用者自らが水を取り替えたりお参りしたりしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>一人ひとりに使い慣れた家具などを持ち込んでもらい、その利用者にあった居住空間づくりをしている。利用者は馴染みの環境で落ち着いて暮らしている。</p>		